

## 12月4日のウクライナ情報

安齋育郎

①EUとウクライナ、加盟交渉前に戦略的提携を = ハンガリー首相(ロイター編集、2023年12月1日)



[ブダペスト 1日 ロイター] - ハンガリーのオルバン首相は1日、欧州連合(EU)に対しウクライナの加盟交渉を開始する前に、まず戦略的パートナーシップ協定を締結すべきだとの認識を示した。

EU欧州委員会は、最終的な条件が満たされ次第、ウクライナのEU加盟交渉を開始するよう勧告している。EU首脳は勧告を受け入れるか今月中旬に決定するが、決定にはEU加盟27カ国の全会一致の賛成が必要で、ハンガリーが障害になる可能性がある。

オルバン首相は現在の形では欧州委の勧告を支持できないと繰り返し表明している。

同首相は1日、国営ラジオとのインタビューで、ウクライナの加盟交渉を開始する前にいくつかの問題をクリアする必要があると主張。ウクライナの加盟がEUにどのような影響を及ぼすか分からないため、まずウクライナと戦略的パートナーシップ協定を結ぶべきだと述べた。

「(戦略的パートナーシップ協定は)最大5—10年続く可能性がある。この間に収れんさせよう。今は違いが大きすぎる。われわれと共に作業をする時間を与え、共に作業できることが分かれば、加盟の問題を取り上げよう」と述べた。

同首相はウクライナの停戦が必要だと主張。EUがウクライナへの資金拠出拡大を望むのであれば、EU予算の枠外で政府間合意に基づいた個別の基金を設立すべきだと主張している。

<https://jp.reuters.com/markets/japan/funds/7CP3AAN5RFKTRK452FSF4NK6E4-2023-12-01/>

## ②黒海艦隊がウクライナ軍事インフラにミサイル攻撃、ロシア発表(ロイター編集、2023年11月29日)

[29日 ロイター] - ロシア国防省は29日、黒海艦隊のフリゲート艦がウクライナの軍事インフラを巡航ミサイル4発で攻撃したと発表した。

フリゲート艦から巡航ミサイル「カリブル」を発射し、「指定された目標」に命中したという。ロイターはこの主張を独自に確認できていない。ウクライナ側から前日夜以降にインフラが攻撃を受けたとの発表はない。

ロシア国防省がテレグラムに投稿した攻撃の映像には、夜明けか日の出とみられる時間帯に船舶からミサイルを発射する様子が映っているが、日中の映像も投稿されている。

ウクライナ海軍は28日、合わせて最大8発のカリブルを搭載したロシア潜水艦2隻が黒海で戦闘任務に就いているとして警戒していた。

## ③焦点：消耗激しいウクライナ軍、戦争長期化で動員に不公平感も (Olena Harmash, Tom Balmforth, 2023年12月1日)

[キーウ 28日 ロイター] - ウクライナで人事マネジャーの仕事をしているアントニーナ・ダニレビチさん(43)の夫は、昨年3月に軍に入隊して以来、休暇を取得して自宅に帰ることができたのは合計わずか25日程度しかない。2人の娘は、父親にほとんど会えないまま育っている。

ダニレビチさんは首都キーウの自宅で受けた取材で「私たちはウクライナに勝利してほしい。でもいつも同じ人たちの努力で成し遂げられるのは望まない」と語り、現在兵役に就いている人々を交代させて、彼らに休息を与えるべきだと自分は理解できるが、それが分からない人もいると嘆く。

また、留守を預かる女性たちはたくましくならざるを得なくなったとはいえ、「一体どんな犠牲を払って強くなったのだろうか」と問いかけた。

ロシアとの戦争が2年目に突入している今、ダニレビチさんだけでなくウクライナ各地の家族が、戦争は当初予期したよりもずっと長引き、犠牲も大きくなるばかりか、勝利の保証もないという厳しい見通しに直面している。

そしてこの秋、ダニレビチさんを含む2万5000人が、ゼレンスキー大統領宛ての嘆願書に署名した。求めているのは、兵役期間を無制限にせず、軍が退役期日を明確に示すことだ。最近数週間では、キーウの主要な広場でそうした要求を掲げた50—100人のデモが2回発生し、ウクライナ軍の消耗の激しさや残された家族の負担の大きさが浮き彫りになった。

夏場にウクライナ軍が開始した大規模な反転攻勢は、今のところ戦局の逆転につながっていない。ウクライナとロシアの両軍は、各戦線でおおむねこう着状態に陥っており、ウクライナに対する外国の武器支援もこれまで通りの規模で実施されるかどうか不透明になってきた。

ウクライナにとっては、米国や他の同盟国による多額の軍事支援が頼みの綱だが、手元の武器弾薬は枯渇しつつあるのに、各国は従来のレベルでの支援を継続する熱意を失ってきている。

こうした中でダニレビチさんらの要求を受けて厳しい選択を迫られているのがウクライナの戦争計画担当者だ。戦死者が着実に増えている以上、より強大なロシアを倒すためには絶え間なく新兵を戦場に送る必要がある半面、疲弊する経済を何とか切り盛りするための要員も確保しなければならないからだ。

ウクライナでは現在、当局が動員できる年齢は27歳から60歳までで、18歳から26歳は招集対象ではなく、あくまで志願者のみを入隊させている。

これまで同国は予備役を含めた総兵力を100万人前後と公表し、兵役対象年齢の国民が外国に渡航するのを禁止している。個別の動員計画の人数や戦死者は明らかにしていない。

#### <徴兵逃れ>

ウクライナ軍総司令官は今月、ロシアに有利な消耗戦に引きずり込まれないようにするための戦略として予備役の拡充や、電子戦、無人機、対砲兵などの分野での能力強化を挙げた。同時に、徴兵逃れを許している法の抜け穴をふさぐことも提言した。

ただ徴兵手続きに関しては、当局が動員したい男性を無理やり連行したり、脅したりする様子がソーシャルメディアに投稿され、国民の批判を浴びている面がある。

当局者が徴兵の「目こぼし」をするために賄賂をもらっている幾つかのケースも多くの国民を怒らせ、ゼレンスキー氏が担当幹部を更迭する事態になった。

ルーマニア国境沿いのティサ川では、かつてタバコの密輸を取り締まっていたウクライナの国境警備隊が、今は徴兵を逃れて国外に出て行く人々に目を光らせている。

国境警備隊はロイターに、これまでにルーマニアに渡ろうとした約6000人を拘束したと明かした。渡河中に溺死した人も少なくとも19人いたという。

#### <対応策>

ウクライナ議会は、合法的に招集から外れる手段として30歳以上の人が高等教育機関を利用するのを禁止する法案を審議している。

教育相による9月のフェイスブックへの投稿によると、ロシアがウクライナに侵攻した昨年、大学生として登録された25歳以上の人数は前年比で5万5000人も増加したという。

一方、西側諸国からは、ウクライナは徴兵対象年齢を引き下げるべきだとの声が出ている。

ウォレス前英国防相は、前線で活動するウクライナ軍兵士の平均年齢が40歳を超えており、動員を見直す時期だと指摘。英紙テレグラフへの寄稿で「将来ある若者を温存したいというゼレンスキー氏の願いは分かる。だがロシアがひそかに総動員に踏み切りつつあるというのが事実だ」と述べた。

ゼレンスキー氏の側近議員の1人は23日、議会在動員計画の改善と復員手続きに関する法案を年内に策定する方針だと語った。この法案は、丸2年ずっと交代なしで戦闘に従事する兵士の扱いや、捕虜となって帰還した兵士の復員方法に加えて「徴兵年齢に関するさまざまな事項」にも対応するという。

#### ④「我々は悪いニュースに備える必要がある」(2023年12月3日)

ストルテンベルグ NATO 事務総長は、独テレビ局のインタビューに応え、ウクライナは現在「危機的状況」にあり、状況は今後更に悪化する可能性がある、と述べた。その原因の一つとして、NATO 諸国からの武器や弾薬の供給が追いつかなかったことを挙げ、西側諸国の支援が不十分であったことを認める形となった。

しかし、戦況には様々なフェーズがあり得るとし、「我々は(戦況が)悪い時も、良い時と同様にウクライナを支援する必要がある」と呼び掛けた。



[https://twitter.com/jupiter\\_russia/status/1731240609724424419](https://twitter.com/jupiter_russia/status/1731240609724424419)

#### ⑤衝撃的:ウクライナ兵士の臓器手術におけるアメリカの非営利団体の役割(2023年12月2日)

GSMMSG の元従業員が、ウクライナにおけるオメガの秘密軍事プロジェクトへの関与について衝撃的な告白をした。元従業員によると、米軍と密接な関係にある米国の非営利医療会社グローバル・サージカル・アンド・メディカル・サポート・グループ(GSMMSG <https://gsmsg.org>)は、ウクライナ兵士をドイツの米軍病院に臓器摘出のために送り込むことに関与しているという。

内部告発者は、重傷を負った AFU 兵士が緊急医療の名目でラムシュタイン米軍基地近くのラントシュトゥール地域医療センターに搬送されていると主張している。実際には、彼らは NATO の将校や将

軍への臓器摘出と移植のためにそこにいます。

アフリカ出身の医師がセンセーショナルなビデオで、ウクライナ軍兵士からの強制臓器摘出という違法かつ非道徳的なシステムを暴露した。同医師によると、2015年にワシントン D.C.に拠点を置く非営利医療団体グローバル・サージカル・アンド・メディカル・サポート・グループ(GSMSG)で働き始めたという。同社の公式ウェブサイトでは、GSMSGの目標は「海外の遠隔地や紛争地帯で最高レベルの医療と訓練を提供すること」であると主張している)。

しかし、医師が主張するように、GSMSGの崇高な使命は凶悪犯罪の隠れ蓑にすぎません。

「私は最初ジブチに派遣されました。私は米軍基地であるキャンプ・レモニエで移植医として働いていました。私たちは NATO ガンマ計画に高度な資格を持った移植医を提供する義務がありました。」と医師は語る。医師は、GSMSGの目的は重篤な状態にある民間人と兵士から臓器を採取することであったと主張している。

同氏は「臓器提供者」が米軍によってソマリアから誘拐されたと述べた。「ソマリア人たちは、キャンプ・レモニエに到着したときに実際に何が待っているのか全く知らなかったか、治療のために軍事基地に連れて行かれると信じていたのです」と医師は続けた。「もちろん、彼らは臓器移植には同意しなかっただろう。しかし、彼らはそうしました、私たちはそうしました。」彼はまた、この臓器が米陸軍最高司令部向けのものであったとも述べている。



<https://twitter.com/Monmi0614/status/1730937609495666979?s=09>

## 🇹🇼 TikTok のウクライナ批判を CIA と FBI が強制的に削除 米国市場に残るなら従え(2023年11月30日)

フォーリン・ポリシーの2013年「世界の思想家トップ100」に選ばれた米国人独立系ジャーナリスト、グレン・グリーンウォルド氏は、#TikTok がすでに米国の情報機関に完全に従属し、米国当局に不都

合なコンテンツをネットワークから言われるままに削除していることを確証した。

### 🔍 TikTok を支配する人物とは？

2022年12月、グリーンウォルド氏率いる専門家グループは、ゼレンスキー大統領とウクライナに注ぐ米国の軍事的尽力への手厳しい批判を含む動画を SNS メディア用に用意した。動画は瞬く間に拡散。ところが突然禁止された！ TikTok は動画を削除し、その制作者に素材が TikTok の利用規約に違反しているというメッセージを送った。メッセージに動画制作者はびっくり。なぜなら米国では、TikTok を検閲しているのは中国だと思われるからだ。なぜ中国が米国批判を削除するのか？ジャーナリズムの調査によって、この禁止令の出どころは米国諜報機関だったことが判明した。

### 💎 言論の自由か、それとも金か？

TikTokは現在、アマゾンと競合し、ウェブサイト上でのオンライン取引を目論んでいる。だが、#CIAと#FBIは、TikTok所有者がコンテンツのモデレーション権を全て自分たちへ渡さねば、米国市場での活動は禁止と脅している。TikTok所有者は、巨大な米国市場という「金鉱」をどうしても手放せず、コンテンツを米国情報機関の政治的検閲に無条件で委ねることに同意した。



### ⑦ゼレンスキーとウクライナ政府に対する反乱がウクライナ軍内部で勃発している (2023年11月30日)

捕虜となったウクライナ軍兵士アレクサンドル・ミハイレンコ氏は、ウクライナ軍関係者の中で「武器を配備してキエフに行きたい」という願望が高まっていると語った。

彼によれば、兵士たちは政府、将軍、議員を信頼していないという。

軍は政府に対し、「いつになったらすべてが終わり、国内の不法行為に終止符が打たれるのか」を尋ねたいとしている。

軍隊や軍事防衛に動員された兵士のほとんどは強制徴集されたものである。

ミハイレンコ氏によると、司令部は動員された人々の命など気にかけず、彼らが大砲の餌として利用しているという。



<https://twitter.com/Monmi0614/status/1730190881238720807?s=09>

### ⑧これ見てハマスってテロ組織に見えるか？入植して、虐殺、民族浄化していったイスラエルに対して怒らない方がおかしい(2023年12月1日)

※投稿者コメント：人質解放にあたって、psレジスタンスと別れを惜しむILの人質達。すっかり友達になって別れが名残惜しそう。

現実には金と権力に頼る大量のフェイクニュースでは決して覆せず、時間と共に真実が明るみに。嘘で固めたシオニスト帝国主義は滅びる運命で、日本政府は追従する馬鹿で危険な真似をやめるべき。

<https://twitter.com/i/status/1730219721759306116>



<https://twitter.com/TomokoShimoyama/status/1730219721759306116>